

馬見丘陵公園の植物観察

9月例会(自然教室チーム担当)

日時：9月9日(月) 10:00~14:45

参加者：17名

幹事：倉田、高本

この日は前日までと違い、爽やかな秋を感じさせる天気恵まれ、馬見丘陵公園をマイフィールドとして、数多くの自然観察会に携わっておられる田代 貢さんの案内で様々な植物を観察し、その不思議を教えていただいた。

植物の葉、花、実、種の構造や特徴を学ぶためにルーペ(虫めがね)を使って花や実あるいはその種を見てみたり、花の蕾や実・種を縦割りにしてその構造を観察したり、また植物と虫の自然界での関わりを観察したりといった一味もふた味も違った植物観察会となった。

講師として植物の不思議を様々な角度から紹介、



解説していただいた田代 貢氏による今回の観察会は大きな意義をもつものになったと感じている。

ミズキの大きな木が大きく枝をはり多くの葉が茂っているのを見て、多数の葉が少ししか重なり合わずに並んでいるだけではなく、使える空間を効率的に使って葉を配置している。つまり、長い葉柄・丸い葉身と短い葉柄・やや細長い葉が混在することによって、光合成のために隣葉との重なりを小さくしている。

アカメガシワの前では「アリ」をさがしてください。」との講師の声。すぐに葉の上にいる「アリ」を発見。「アカメガシワは葉身の基部近くに一対の蜜線(花外蜜腺)があり、蜜を集める「アリ」が常駐することが多く、アカメガシワは「アリ」に蜜を与え、そのかわりに他の虫からの食害を防いでもらっていると考えられている。」との説明

に一同「フーン、なるほど」。植物と昆虫の不思議な関係に感嘆。



シラカシ・アラカシの違いを学習

ヤブガラシの巻きヒゲを手につる植物は他の何物かに自分の体を固定する必要がある。

巻きヒゲは何かに触れるとその先端で巻きつくと同時に螺旋状にねじれを生じて本体を引き寄せる。

螺旋状になった巻きヒゲはバネのように働いて緩やかに



本体を固定する役割を果たす。

この螺旋をよく見ると途中で向きが反転している。

引っ張られた場合もこの形であればねじれてちぎれることが少ない。

これらは植物が生きてゆくための知恵?(自然の不思議)が実感された。

最後には自然教室チームのメンバーがサルスベリ、オキザリス・レグネリーを解説し、ススキの葉飛ばしと言った自然遊びも取り入れた初秋の観察会は無事終了。

(高本 実男)